

No.	質問・意見概要	教育委員会の回答・考え方
1	<p>学校再編は社会情勢的に致し方ないのかなと思うが、やはり一長一短ある。蒲池校区の場合は、ある意味では今までどおりと言える。質の高い教育を目指すに当たり、他校と統合され刺激を受ける学校と、あまり変化のない学校とで格差が生まれませんか？</p>	<p>(学校教育課長)蒲池校区の場合は、1小1中から義務教育学校への再編であり、これまでと大きな変化がないことで、他校との格差が生まれぬかという懸念についてだが、当然、私共としても格差のある教育は望んでいない。9年間の一貫教育といっても、小学校相当の6年間で小学校の教育課程を学び、その後3年間で中学校の教育課程を学ぶ形は一緒である。例えば、中学校籍の教員が5・6年生に対し、中学での学習にスムーズに繋がるように教えることはあるかもしれないが、極端なカリキュラムの前倒しを行うことはない。これまで別々の校舎で学んでいた幅広い年齢層の子どもたちが交流することにより、良い効果が現れることに期待している。また、義務教育学校が導入されない校区では、義務教育学校への入学を希望する質問もあった。</p> <p>(首席指導官)ご指摘の点は確かに注意すべき問題である。義務教育学校では、中学校への進学段階で他校から来た者との新しい交流が起こらない。しかし逆に、義務教育学校には通常の6・3制の小中学校にない良さがある。先進校の話を見ると、1年生から9年生までの発達段階の違う子どもたちが一緒にいることで、特に高学年の生徒に低学年に対する思いやりが育ち、学校全体の落ち着きに繋がったとのこと。また、中学3年生にあたる9年生は、義務教育学校では9学年からなる集団のリーダーとなることで、情操的な成長が見込まれる。さらに、小学校から中学校へ進学する際の環境の変化による躓きが緩和され、学力が順調に伸びていった事例もある。説明にあったように、中学校の職員が小学校部分の授業を行う機会があるため、中学校のカリキュラムへのスムーズな順応を図ることが可能である。さらに運営側の視点では、1人の校長による9年間の一貫したカリキュラムの実践が可能であり、教職員も小中学校それぞれの人員が1つの職員集団になるため、それぞれの良さを学び合うことで、教育の質の向上に繋がるのではないかと考えている。</p>
	<p>蒲池校区ではあまり問題ないと思うが、再編後の学童保育はどうなるのか？</p>	<p>蒲池校区は1小1中の統合なので、基本的には今までと同じである。複数の学校が統合する場合の学童保育については、所管課である子育て支援課と協議をする中で、新設校ごとに学校内に学童保育所を確保したいと考えている。再編統合にあたって空き教室の確保ができない場合は施設整備も視野に入れて、学校敷地内に学童保育を設置したい。また、学童保育の運営主体である各校区の運営委員会も、学校統合までに間に合うか分からないが、新設校ごとに1つになるのが自然な形だろうと思う。</p>
	<p>現在18ある公民館・コミュニティセンター、また、コミュニティスクールが今後どうなるか聞きたい。</p>	<p>公民館活動について、現在1つの校区に1つの公民館があり、様々な組織が小学校区と結びついている。今回の計画で、再編の基準として小学校区を分割しないとしたのは、これらへの影響を軽減するためである。学校は地域の支援で成り立っている。複数の小学校区が統合される学校については、1つの学校を1つの校区が支える従来の形から、1つの学校を複数校区が支える形へと変わるため、連携方法等様々な協議が今後必要になると予想される。公民館としては、引き続き、現行通りの活動をしていただきたい。</p>

No.	質問・意見概要	教育委員会の回答・考え方
1 つづき	義務教育学校と他の学校で学力の差が出ないような対策をお願いしたい。	6・3制の学校と義務教育学校で学力の差が出ないようにとのことだが、義務教育学校における指導体制として、小中それぞれの教員の乗り入れが行われることは確実だろうと思う。これにより学力が停滞することなく伸びていくのではないかと考えており、教育委員会としてもきちんと支援したい。
2	9年制のメリットは説明を聞いて理解できた。しかし、資料の2ページにあるように、蒲池小が6年後10クラスになるということは、1、2年生が1クラスになる。12年後には蒲池中も同様である。義務教育学校は、9年間の縦軸を考えた場合に確かにメリットがあるが、横軸の同学年で考えると、クラス替えができず、クラブ活動などが限定されることが予想される。これについてはどうお考えか？	<p>(学校教育課長)確かに今後の蒲池校区の予測を見ると、将来的に1クラスしかない学年が出てくる可能性がある。本来であれば隣接する校区との統合が必要であるが、校区の形状や学校の立地等を考えると、再編基準での組み合わせが難しい。そこで、学校全体としてクラス数を確保することで小規模化の課題を解決するため、義務教育学校の導入を計画している。クラブ活動に関しては、義務教育学校の先進事例では、5年生から部活動に参加できる対応をとり、活性化を図っている学校もある。このように学校規模を適正化し、一定規模の教職員集団を確保して教育環境を充実させることで、保護者の方から蒲池校区の学校に通わせたいと思っていただけるようにしたい。</p> <p>(首席指導官)蒲池校区の義務教育学校の規模が更に小さくなり、クラス替えを行うことによる効果が望めないとなれば、縦割りの活動をより充実させることになると思われる。異なる学年間で積極的な交流を図ることで、多様な価値観とのふれあいや社会性・協調性を補っていきたい。</p>
3	教職員の研修等を充実し、例えば中学校の先生が小学生と接する場合の言動を学ぶなどしていく考えはあるか？	学校内で教職員への研修等を行っていくことになるが、義務教育学校になった場合、職員集団が1つであるため、小学校の先生が小学生に接する場面を実際に見て学ぶことができる。小中学校それぞれの先生が子どもたちと接していく中で、自然と対応が変化し、教育の質も上がっていくのではないかと考えている。